

□ スマートインターチェンジ

1 続々と開始される本格運用

スマートICは平成16年度の社会実験開始以降、平成18年の本格導入に関する制度実施要綱の策定を経て、平成21年2月に新たな制度実施要綱が定められました。

これを受けて、平成21年4月からは全国各地で数多くのスマートICが本格運用されています。

現在、既に全国45カ所の
スマートICが本格運用!

平成21年4月より、
関東では6カ所が
本格運用スタート

2 スマートICのメリット

コンパクトな料金所により低コストで導入できるスマートICは、観光振興や渋滞解消などの様々なメリットを持ち、地域活性化の目玉として県・市町村に注目されています。

ETCの急速な普及（高速道路利用率：約80%）やETC割引の効果もあり、多くの地域でスマートIC導入の取り組みが進められています。

- 渋滞の解消
(日常及び行楽シーズンの混雑解消)
- 観光振興
(観光消費の誘発)
- 経済の活性化
(企業誘致の促進、物流の活性化)
- 緊急医療施設への搬送時間の短縮
災害時の代替ルート 等

3 新たな制度実施要綱

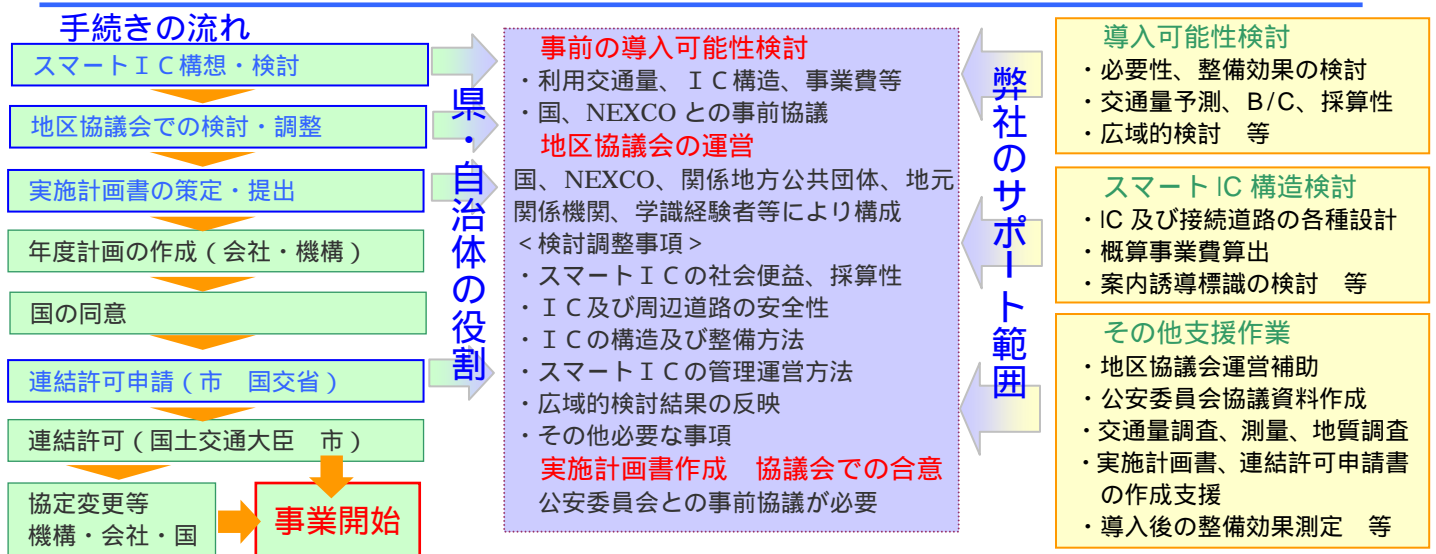
国土交通省では道路特定財源の一般財源化が検討される中で、高速道路の有効活用と機能強化を目指してスマートIC整備に関する**新たな制度要綱**を平成21年2月に策定しました。(：スマートインターチェンジ〔高速道路利便増進事業〕制度実施要綱)

従来の社会実験制度が廃止されるとともに、本線直結型では国の財政負担区域を料金所にまで拡大する方式が定められたため、自治体側での財政負担の軽減が図られるケースもあらわれることとなりました。

<新制度要綱の主なポイント>

- 対象道路
「一般有料道路」も対象に追加
- ICタイプ
SA・PA接続型に加え**本線直結型**も対象
- 広報・意見聴取等
地域住民に対する広報・意見聴取等が明記
- 社会実験の廃止
「社会実験の活用」に関する記述削除

4 スマートIC設置までの流れ



(参考：新制度要綱)

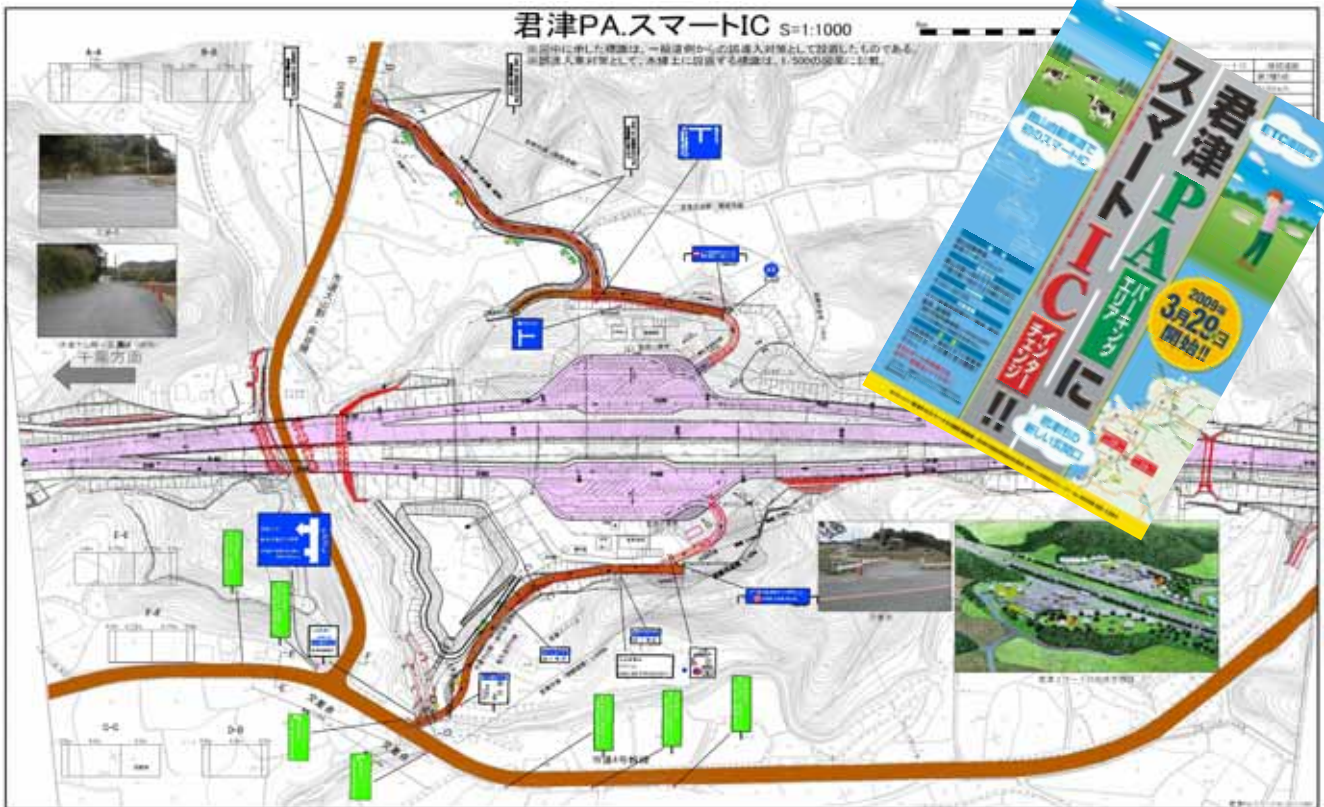
4 スマートIC整備設計事例

館山自動車道 君津PAスマートIC

弊社で設計したスマートICが千葉県初のスマートICとして平成21年3月29日に開通し、地元観光施設の開通記念イベントなどが開催され、南房総でも屈指の観光地である鹿野山方面(マザー牧場)への観光交通などに多く利用されています。

業務のポイント

既存のPA管理用車両通路をICアクセス路として利用。事業費を極力抑えることに配慮した設計を行いました。



5 関連業務実績

経験豊富なスタッフがスマートICのソフト・ハードの両面から、全面的にサポートします

- ・ 道路検討業務 15C・1・7 (国土交通省：首都近郊既存SA・PAへの設置可能性調査)
- ・ 姨捨SA接続型スマートIC社会実験実施計画書作成業務 (千曲市：長野自動車道)
- ・ 佐久平スマートIC社会実験申請用実施計画書作成業務 (佐久市：上信越自動車道)
- ・ 君津PAスマートIC実施計画書作成、IC設計、アクセス道路設計業務 (君津市：館山自動車道)
- ・ 静岡SAスマートIC設置基本計画策定調査 (静岡市：第二東名高速道)
- ・ 県単道路改良(幹線)委託(スマートIC検討) (千葉県：首都圏中央連絡道)



セントラルコンサルタント株式会社

<http://www.central-con.co.jp>